

事例

バッタかわいい！
R1・7月19日（雨）4歳児

【活動の様子】

雨の日、友達と傘をさして戸外に出たAは、雨の園庭の散策を楽しんでいた。年長児Hが草むらで見つけたショウリョウバッタを手に乗せ、Aらに見せると、Aの目はバッタに釘づけになった。Hはバッタを地面に下ろすとその場を離れたが、Aらは、バッタを観察し続けた。バッタが跳んで逃げると、Aはバッタを捕まえ、バッタをつまんだり、水たまりに入れたりしようとした。側にいたTは「バッタがかawaiiそう！」としきりに言ったが、AはTの言葉を聞いているようには見えなかった。Tが花壇を指さして「あそこがいいよ。おろしてあげよう。」と言うと、Aは花壇の花の上に、そっとバッタを下ろした。Tが安心した表情を見せたので、一緒にいた教師は、「良かったね。バッタ、嬉しそうだね。」と声をかけた。

Tがその場を離れた後も、Aはしゃがみこんでバッタの様子を観察していた。すると、同じ花に、小さなショウリョウバッタがいることを見付け、「先生！見て！」「小さい！」と、目を輝かせて伝えた。そして、二匹を見比べながら、「大きい。」「小さい。」と、ジェスチャーを付けて、伝えることを楽しむように、何度も繰り返した。Aは、友達が様子を見に来るたびに、「見て！大きい！小さい！かわいい！」と繰り返して、バッタを見つけた感動を知らせていた。

しばらくすると、初めにAにバッタを見せた年長児Hがやってきた。Hは来るなりバッタを手へのせ歩きだした。すると、Aは「かわいそう！かわいそうよ！」と大きな声でHを制止した。びっくりしたHはすぐにバッタを下ろした。Aはバッタを優しく手に取り、「This is his house.」と、先ほどの花壇の花の上にとおろした。

タイムが終わると、Aはバッタに「バイバイ。」と手を振り、その場を後にした。

Aは[]籍の子供である。家庭では、母国語と英語を使って生活しており、入園を期に日本語や日本の友達に触れる生活になった。入園当初は同国の友達と母国語で会話しながら遊ぶことが多かった。最近になり、同じクラスの友達の名前を呼んだり、簡単な日本語を使ったりする姿が見られるようになってきた。

【遊びの中で育まれている力】

- ・雨の日も園庭の散策を自由に楽しむことができるように、傘を意用しておく。
- ・Hが見せたショウリョウバッタを見て、心が揺さぶられ、興味をもち、夢中になって観察している。（感じる・気付く力）



- ・友達の思いに気付くことができるよう、教師が指さしやジェスチャーを使いながら、簡単な日本語を繰り返し、表現する。
- ・自分の思いや気付きを言葉や全身を使ったジェスチャーで表現し、伝えることを楽しんでいる。（人とかがわる力・うごく力）



- ・一緒に指さしたり、表情やジェスチャーを交えて言葉を繰り返したりしながら、本児の思いに共感し、会話を楽しめるようにする。
- ・自分が大切に観察していたバッタを、Hが手にしたことに對して、「かわいそう！」と相手に伝え、優しく大事そうにバッタを「His house」に戻している。（感じる・気付く力）

この遊びの中での学びを支えたもの

ショウリョウバッタの飼育

教室では、飼育ケースでショウリョウバッタを数匹飼っていた。飼育ケースは子供が自由に観察できる場所に置いてあり、Aは普段から飼育ケースを覗き込んで、草を食べる様子を観察したり、バッタがジャンプする様子を見たりして関心を高めていた。「ジャンプ！」と友達とバッタの真似をし、笑い合うなど、バッタを通して友達との交流を楽しむ姿も見られた。

じっくり遊べるおひさまタイム

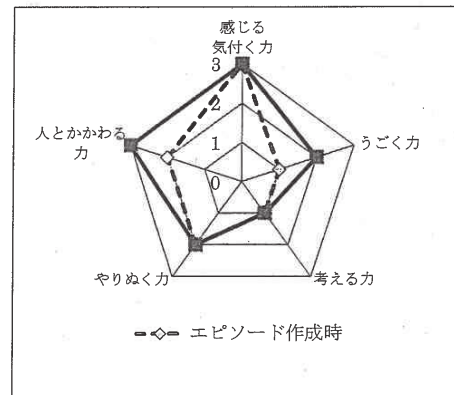
自分で選んだ遊びにじっくりと取り組めるおひさまタイムがあったことで、Aは満足いくまでバッタの観察を楽しむことができた。じっくり観察していくことが、「かわいい！」と、バッタへの愛情に変わり、自分の思いや気付きを友達や教師に伝えようとする意欲につながった。

Aの日本語への興味

入園当初、Aは、外国籍の友達と[]語や英語を使って遊ぶことが多かった。日々のクラスでの活動を通して、同じクラスの友達の名前を覚えて呼んだり、簡単な日本語を使ったりを楽しんだりするようになっていた。覚えた日本語を使って話そうとする意欲が高く、教師が「Good morning.」と挨拶しても、「せんせい、おはよう！」と答えるようになっていた。

言葉と事物を結び合わせる教師の援助

友達と関わることを、楽しんだり、知っている日本語を使うことを楽しんだりしているAだが、友達の会話の意味が分からないことも多い。「水の中はかわいそうだね。」「嬉しそうだね。」などの場面では、教師が表情や動作を交えて繰り返し言葉を伝えることで、Aは「かわいそう。」の意味を獲得したと考えられる。



リーダーチャートを使った協議を終えて

Aはショウリョウバッタの様子について、教師や友達に伝えようと、一生懸命に表現し、また、他者を意識し共に楽しもうとする姿が見られることから、「人とかがわる力」を3とした。

Aは、自分の思いを表現するために、言葉と合わせて、全身を使ったジェスチャーで伝えようとしていた。バッタを観察して抱いた感動や、他者に思いを伝える楽しさを全身で表現していたため、「うごく力」についても見られる場面であったと考え、2とした。